

推薦状

名称：家の中の家カカポ TypeE (Education)

日付：17/08/2020

～ 商品の可能性について ～

私は、この商品（以下カカポ）で、実際に子供たちが遊ぶ様子を一定期間観察し、また自分でも使ってみました。その結果、カカポで遊ぶことによって、子供の能力の発達やスキルに関して、下記のような効果があり、子供の玩具として適当であることを推薦致します。

●集中力

ーシンプルなシステム

カカポは、紙管をジョイントで繋いでいくというシンプルなシステムで構成されています。子供たちは、容易に形を作ることができ、また固定したイメージを与えないデザインのため、始めの形から次々にイメージが湧いて、形にしていくことでまた次のイメージが湧く、という好循環を生み、長い時間集中して遊びます。

ーダイナミックな形を構築

カカポは、遊び始めてすぐ、自分の身体が入るほどの大きさの物を作ることができ、ダイナミックな形を構築できます。このような体験をできる玩具は他にないため、熱中が長く続きます。

●身体感覚

ー自分自身の身体

自分の身体を大きく使って形を構築していくため、運動能力や、身体と建築物の関係、ヒューマンスケールといった身体感覚が養われます。

ー自己と他者の関係

他者と関わりながら形を構築するため、他者との距離感や他者の身体感覚への想像力といった、関係性に関わる身体感覚が養われます。

●数学的能力

ー長さの関係性

カカポの紙管の長さの関係は、それぞれ単純に1/2などではないため、どの紙管をどのように組み合わせると同じ長さになるかなど、長さの関係を考える能力が養われます。

ー幾何学的な感覚

三角形や四角形を作るには、何を組み合わせれば良いかを試行錯誤することにより、幾何学的な感覚が体感的に養われます。また、平面的な形から立体へと移行することにより、立体への感覚を養うことができます。

ー物理的な感覚

立体をより大きく、高く、より複雑な形に構築するにはどうしたら良いかなどを試行錯誤することにより、構築物の安定性や方向性など、物理的な感覚が養われます。

●コミュニケーション力

ー他者とのコミュニケーション

より大きく、高く、複雑な構築物を作りたい場合、他者の協力が不可欠となり、どのようにイメージを共有していくか、より良い方法へのアプローチなど、コミュニケーション力が強化されると考えます。

ー物語性

イメージを共有していく方法として、物語を共同で作り上げることが必要となり、コミュニケーションしながら物語を構築する力が養われると考えます。

●アートとデザインの力

ーアート

遊んでいく中で、問題解決や問題提議、また物語性を探索する手法としてのアートの力を認識し、育てていくことができます。また、構築物の影を発見して形を考えたり、視点を変えることで別の物語が出現したりといった、物の見方や視点の変容、再発見という、アートの力を養うことができると考えます。

ーデザイン

構築物の形そのものや、どのような別の素材を組み合わせるか、装飾物などの、構築物自体のデザインはもちろん、その中で誰がどのように遊べるのか、といった用途のデザインも学ぶことができる。

以上のような観点から、カカポは、子供の発達において非常に優れた商品であることを推薦いたします。


